

テーマ：景気動向指数（9月）の予測（暫定版）

発表日：2008年10月29日（水）

～景気悪化が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 小幅上昇も、基調は悪化

10月29日時点で公表されている統計により計算を行うと、9月のC I一致指数は、前月差+0.1ポイント、C I先行指数が前月差+0.3ポイントが予想される。ともに辛うじてプラスではあるが、8月に一致指数が前月差▲2.9ポイント、先行指数が同▲2.4ポイントと大幅低下した後にしては、戻りが極めて弱い。C Iは、一致、先行とも均してみれば明確に悪化傾向にある。

なお、一致指数の採用系列である有効求人倍率（10/31公表）と所定外労働時間指数（11/4公表）、先行指数の採用系列である新規求人数（10/31公表）と新設住宅着工床面積（10/31公表）が現時点で未公表であるため、今回の試算では有効求人倍率を0.85倍、所定外労働時間指数を前月比横ばい、新規求人数を同▲1.7%、新設住宅着工床面積を同横ばいと仮置きして計算している。これらの指標の結果次第では、C Iの予測値を変更する可能性がある。

○ 基調判断は「悪化」のまま。当面、景気後退局面が続く

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「悪化」が維持される見込みである。内閣府の定義によると、「悪化」とは「景気後退の可能性が高いことを暫定的に示す」とされており、C I一致指数からは景気が引き続き後退局面にあることが強く示唆されている。

先行きについても、C I先行指数の悪化傾向が続いていることから考えれば、景気の落ち込みが当面続くとみるのが自然だろう。実際、本日公表された鉱工業生産指数と10、11月の予測指数から判断すると、足元で既に弱含んでいる鉱工業生産は、08年10-12月期には減産ペースが大幅加速する可能性が極めて高い。实体经济の悪化はむしろこれからが本番だ。

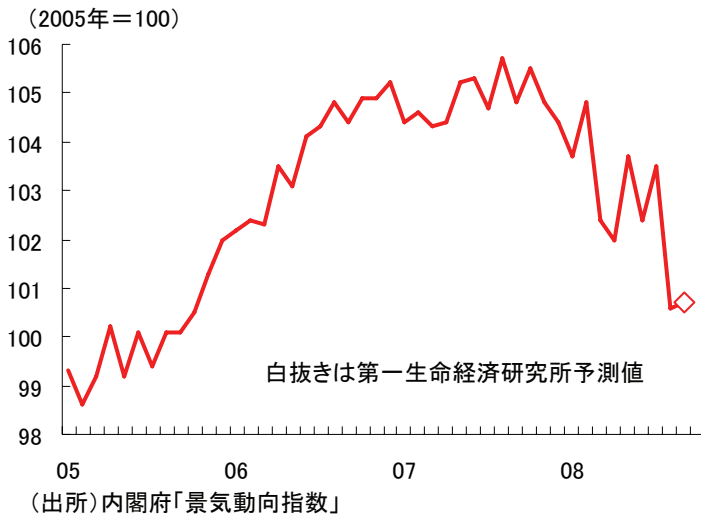
米国における金融混乱と世界経済の悪化、株価の急落、円高の進行等、足元では悪材料が目白押しであり、日本経済は回復の見通しが全くたたない状況となっている。エコノミストの間でも、一時期主流だった「景気後退は軽微かつ短期で終了する」との見方は完全に修正されており、2009年いっぱい景気後退が続き、調整幅も軽微とは言えないとの見方が増えてきている。日本銀行も、10月31日に公表される展望レポートで、景気の悪化と回復時期の大幅後ずれを認めざるを得ないだろう。

○ D I一致指数はゼロに

D Iについては、先行指数が10.0%、一致指数が0.0%と予想される。D I一致指数がゼロになるのは2001年12月以来のこと。景気の悪化が広がりを見せていることが分かる。

(資料1)

CI一致指数



(資料2)

CI先行指数



(資料3) 一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度の予想

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.34	大口電力使用量	-0.20
生産指数(鉱工業)	0.15	有効求人倍率(除学卒)	-0.14
鉱工業生産財出荷指数	0.03	商業販売額(小売業)(前年同月比)	-0.09
商業販売額(卸売業)(前年同月比)	0.03	中小企業売上高(製造業)	-0.05
所定外労働時間指数(製造業)	0.00		
<hr/>			
営業利益(全産業)	0.05		
稼働率指数(製造業)	0.00		